

老人クラブ三大活動

健康

友愛

奉仕

ねんりんおうみ

—— 近江シニアクラブ 第95号 ——

米原市近江老人クラブ連合会発行 電話 0749 (52) 4393



祝 第46回 近江高齢者大会

10月12日(木)

近江学びあいステーション「ときめきホール」において近江老人クラブ連合会主催の「第46回高齢者大会」を開催しました。

開会の言葉に続き、物故者会員に対して黙祷、「近江わが町」老人クラブの信条の唱和、近江老ク連の藤田会長挨拶の後、社協事務局長吉田様のご祝辞をいただき、白寿1名、米寿32名、喜寿34名、金婚7組のそれぞれの代表者の方々に藤田会長よりお祝い状と記念品の贈呈がありました。受賞者を代表して古野輝男様より謝辞をいただきました。

高齢者大会 第2部講演、落語

式典後は「人生百年時代 笑いの効用」と題して、久志則行氏の講演がありました。久志氏は笑福亭鶴瓶の門下から離れフリーとなり、今、日野町のお寺で住職を務めるかたわら、断家「てんご堂我楽」を名乗り、公民館などで落語を披露されています。

「明るいのが一番！笑いは健康の源」と、たくさん笑わせて頂きました。明日への活力をもらって、元気になって帰っていただけたと思います。



式典が始まる前に、時間の都合で出来なかった5月の「ふれあい体育祭」の表彰式を行いました。各単老の代表者に賞状と賞金をお渡ししました。

続けて、「近江老人クラブ連合会讃歌」を会場で披露しました。これは市場の北村哲雄氏作曲、高溝の粕淵宏昭氏作詞によるもので、近江老く連のためにつけていただきCDに録音されたものを寄贈いただきました。ありがとうございました。

来賓祝辞

当日のご祝辞をそのまま掲載しています

「地域共生社会」の実現へ
米原市社会福祉協議会
事務局長 吉田兼次



本日は、近江老く連「第46回近江高齢者大会」の開催、誠にありがとうございます。

また、今ほど、白寿、米寿、喜寿、金婚のお祝いをお受けになられました皆様、誠にありがとうございます。これからも、ますますお元気で過ごしていただくことを祈念申し上げます。

さて、今から11年前の平成24年内閣府が示しました「今後の超高齢化社会に向けた基本的な考え方」の中で、人生をいきいきと自立し、誇りをもって、社会の担い手や支え手として活躍でき、たとえ支えが必要となったときにも、尊厳ある生き方ができる社会の実現が重要であると報告されています。

この中で、「働く」ということ以外にも、生きがいづくりや自己実現を果たすためには、様々な生き方を可能とする新しい活躍の場を創出し、その活躍の場と個々の意欲をつなぐ取組が必要で、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、住民間の連携を促進することに対し、高齢者の方々の

パワーを発揮していただくことが期待されています。

さらに、地域の人々との「顔の見える」助け合いにより行われる「互助」の再構築についても、たとえば、高齢者が子育て中の若い世帯を支え、世代間の交流を促すなど、いわゆる「地域力」の強化を図る取組に対し、高齢者の方々がもってられる豊富な経験と知恵を活かしていただくことに、同じく期待が寄せられています。

10年以上前の報告ではありませんが、当時から訪れる超高齢化社会を見据えて、高齢者の捉え方が大きく変化していくことを示唆するものとなっています。



当然、老後の安心を確保するためには、社会保障制度の確立と充実が欠かせませんが、報告からうかがえるように、高齢者だからといって一律に「支えられる人」と捉えるのではなく、社会の重要な担い手・支え手として、たとえば老人クラブの各種活動への参加をはじめ、皆様個々の意欲

や能力を発揮していただくことが、社会を支えることに大きく寄与するという考え方は、今も、まさに求められていることだと思います。

人々の暮らしには、人口減少・少子高齢化社会、社会環境やライフスタイルの変化などにより、地域のつながりが薄れている背景があり、制度の狭間にある問題など、複雑・複合的な課題が生じています。

こうした状況を受け、私も社会福祉協議会においても、「地域共生社会」の実現に向け取り組んでいます。が、「支援の受け手」「支え手」という関係を越えて、誰もが役割をもち、活躍できる地域づくりに向けて、みんながながれるよう進めています。ぜひとも、皆様にもこうした取組に対しご理解をいただき、それぞれのお立場で、できる範囲でご参加いただければと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日もご参加の皆様方、ますますのご健勝を祈念申し上げます。はなはだ簡単ではありますが、高齢者大会の開催に際し、このお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠に
おめでとうございます。





高齢者スポーツ大会開催

第32回米原市老々連高齢者スポーツ大会が9月27日(水)長浜バイオ大学ドームにて開催されました。前回同様、開会式を簡素化し、閉会式・昼食を取りやめ、競技は午前中のみとしました。

近江・伊吹老々連から113名・87名の計200名が出席し、グラウンドゴルフ、ペタンク、ワナゲの種目で熱い戦いを繰り広げました。日頃の練習成果を十二分に発揮され高得点が続出、又、久しぶりに会う会員もいて相互の親睦・絆も深まり有意義な大会となりました。

種目別の順位は下記の通りです。

(体育部)

種目	1位	2位	3位	4位	5位
グラウンドゴルフ	高 番	伊 吹	宇賀野B	村 木	宇賀野A
ペタンク男子	世 継	能 登 瀬	長 沢	多 和 田	杉 澤
ペタンク女子	村 木	伊 吹	長 沢	多 和 田	高 溝
ワナゲ男子	世 継	伊 吹 A	大 久 保	高 番	母 の 郷
ワナゲ女子	多 和 田	寺 倉	舟 崎	大 久 保	藤 川



女性部長友愛会議と しめ縄リース

11月16日「近江老ク連女性部長友愛会議」が開催されました。

今年度の友愛訪問品は「ネットワークオーマー」です。今回は双葉中学校生徒からのお便りも添えて訪問していただきます。

冬の寒い日に首元を温めるだけでなく、心も温かくして過ごしていただきたいと思います。



女性部長会議

その後、県老ク連「お花あそび教室」から講師2名に来ていただき「しめ縄リース」作りに挑戦しました。

材料は予めセットになっていて、受講者全員が初めてでしたが、各自

で花や葉の配置等を工夫され、講師のきめ細かな指導のお陰で個性あふれるしめ縄リースが完成しました。

正月のしめ縄ですが、クリスマスリースのようで、おしゃれなデザインでいい感じに仕上がりました。これでしたら洋式の玄関にもぴったりで、2024年のいいスタートを切れるようなおしゃやれで華やかなお正月飾りとなりました。

(厚生友愛部)



しめ縄リース



作成中

UNISPO 2023 in 米原

昨年に引き続きユニバーサルスポーツ「モルック」の大会が、米原市大野木のビッグプレスにて「ゆるモルック」スにて行われました。ユニバーサルスポーツとは初心者他、障がい・年齢・性別に関係なくだれでも楽しめるスポーツとして、近年話題の競技です。

近江老ク連から会長、副会長、事務局と社協職員1名の応援を得て、4名1チームにて出場しました。もちろん「ゆる部門」での出場です。

結果は午前中の練習試合では伊吹高校を相手に2勝2敗と健闘しましたが、午後の本試合では疲れが出たのかあえなく2連敗となり、予選敗退となりました。敗れはしましたが、若い人と仲良くしゃべりながらの楽しい1日となりました。

すでに取り組んでおられる老人クラブもありますが、まだのクラブ



も是非モルックを事業の中に取り入れてみてください。道具の貸し出しと競技の説明には老ク連から応援に行きます。とにかく面白いですよー！



ユニスポ会場にて

老人クラブ育成功労者表彰



滋賀県老人クラブ連合会が近江母の郷NTシニア会の箕浦吉弘さんを表彰。

箕浦さんは長年にわたりシニア会会長として会の育成発展に寄与され、現在も会の指導者として活躍されています。

単老だより

いのびろ(雑感)

宇賀野老人クラブ

会長 北村幸雄

会長をおおせつかり半年が過ぎました。ここまでやってこれましたのも、会員や役員の皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

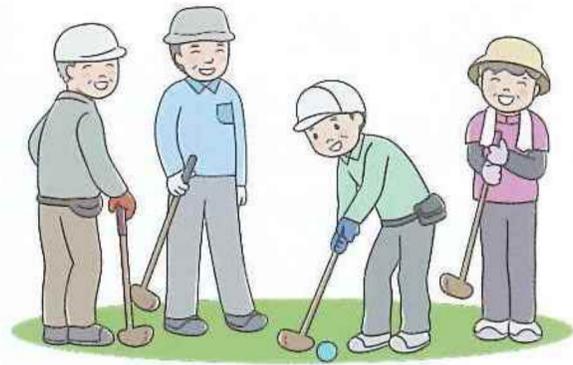
当クラブでは、年間6回の湖岸清掃、8回の神社清掃、ふれあい活動、歌おう会、クラブ主催のグラウンドゴルフ大会、福祉会主催のグラウンドゴルフ大会、同縁会と共催の物故者追悼法要、総会、近年は未開催ですが新年会、さらに近江老ク連のスポーツ大会等の行事を実施・参加しています。

そんな中、近年会員の減少傾向が続いており、少子化とは真反対の団塊の世代以降の方々の参加がかなり多くありません。思えば経済成長の中それぞれが自分の楽しみを見つけ、60を超えた今は人生100年と言われる長寿化時代、年金のこともあり、また栄養状態が良かった時代を送ってきたため、体も頭もまだ動くなかで人口減少も相まって、現役で働く方が多くなってきたのが実情です。

60を越えた方々の老人クラブでの活発な活動は時間的にもちよっと無理があるかも知れません。

ただ、歳を重ねるごとに交友範囲がせばまり「遠くの親戚よりも近くの他人」の諺どおりになることは、どんな元気な人も避けることはできません。そんな時の受け皿になるのが老人クラブではないでしょうか。

車の世話にならなくても、身近で、気軽に喋れて、体を動かせて、元気を与えてあって、楽しく日々を過ごせるような会なら、自然と入会者も増えてくるように思います。では、どうすればいいの？それがわかりません！ 暗中模索ではありますが、何年かかけてみんまで考えていけば、アイデアは必ず出てきます。



あと半年となりますが、その一端を担えるよう頑張ればと思います。皆様の一層のご協力をよろしくお願ひします。

(宇賀野老人クラブ とうもこの名前が：というところで、ネーミング変更の話し合い継続中です。)

地蔵盆異世代交流会の開催

長沢長生会

会長 高橋明満

長沢長生会では、コロナ禍でしばらく途絶えていた地蔵盆の催しの一環として、八月十九日に長沢区福祉会と共に、モルック体験会を開催しました。

当日は、真夏の真っ最中の、典型的な晴れの暑い日で、体力的に大変な時期でしたが、八十代の長生会の会員から、未就学児までの世代を超えた四十一名のメンバーが集まり、長生会と子供会のメンバーが中心となり、コート二面にわたり、全員で元気に、暑さを吹き飛ばして、楽しくモルックを行いました。



長生会や子供会の会員はモルックの体験があり、楽しいゲームであるのが分かっていましたので、早くから集まって、開始を待ちました。

大人、こども各二人の、四人のグループに分け、ゲームを開始しまし

た。参加者全員が元気で、張り切つて楽しんでいました。

慣れたもので、参加メンバーは、ゲームを楽しみながら、スコアの計算をし、勝利の五十点になるように考え、ピンを狙い見事に倒す場面が続出し、会場全体から、拍手喝采をあびていました。

モルック体験のメンバーと、大勢の応援者との息が合つて、楽しい時間を過ごすことが出来ました。地蔵盆の機会を生かした、異世代交流会の計画は、大きな成果を挙げる事ができました。

普段、なかなか異世代との交流の機会がなく、近所においても、顔を合わすことが少ないのが、どこでも現状ですが、工夫次第では、まだまだ方法はあります。皆様これからも、知恵と力を合わせて、頑張りましょう。

長寿会活動持続継続に思う事！

能登瀬長寿会

M.K

去る8月の長寿会「早朝草刈り作業」は予定どおり実践されました。例年の区内への長寿会奉仕活動ですがいつも参加されていた会員さんだったのに何名かの顔が見れず淋しい気がしました。

草刈り作業には体調も優れず出勤は勘弁してほしいとの事らしい。

年々高齢化が進み足腰も弱くなり、外に出るの作業がしんどくなって出勤したくても出てこれない会員が増えて来たのは確かな現実です。

又、近年のコロナ禍で外出減少が影響したかもしれないのですが、

新規会員入会が極小で自然減も相まっての会員減少の中で益々活動が難しくなってきました。

だからと言ってあれもこれもと活動行事を端的に取り止めと決め付けるのは地区への社会への奉仕活動を否定して廃止してしまう事で、残念でもあり寂しい限りと思うのは私だけでしょうか？

会員の誰かが言っていました。「会員が少ない、行事開催が困難になったと嘆いて、諦めるだけでは能がない。」

まだ動ける会員が積極的、前向きに活動に出て現状を相互理解して粘り強く実践して行くべきだ。」と！



会員増など現状打破は中々難しいけど長寿会活動の持続継続を深刻に考えると現状では当然の考え方です。私としては力強く同調する次第です。要するに困難な状況に没しない事です。

そんな粘り強い活動の継続の中で地区内の子供達、青少年達、長寿会予備軍らしき人達らとのいろんな行

事や交流の中から長寿会活動への理解、支援、応援を求めて地区内の「長寿会活動」の存在を再認知してもらえないでしょうか？

長年に亘って培って来た能登瀬長寿会活動実績を絶やす事のないように、そして今後の活動持続継続の為にと悩み、考える今日この頃です。

部会だより

厚生友愛部

心温まるネットワークオーマー

部長 堤 正純

本年度も各単老の会長、女性部長、役員さんのお陰で友愛訪問を実施して頂きました。

今年の訪問品は「ネットワークオーマー」に双中生徒さんが心温まる「お手紙」を添えて下さいました。この友愛訪問の原資となっているのが百円玉募金です。

二つの活動が、これから先も継続されるよう、皆様の御協力を宜しくお願いします。

体育部

女性の参画や活躍に期待します

部長 宮野節児

体育部長と拝命を受けて2年目を迎えこれからというときに体調を崩してしまい残念ですが活動に参加ができていません。皆様には多大のご

迷惑をお掛けしました。

そんな中、理事の僕の顔が見えないことを心配して元老ク連会長さんが励ましに来て下さいました。

会長の話は会員との交流事業や親睦旅行など楽しかったという思い出話をされ仲間の輪を感じました。

元会長の話で特に印象に残ったのは今の老ク連の体制を見て「男女共同参画社会なのに女性の理事さんが一人もおられない。

これはおかしいと思わないか」と、アドバイスを受けました。そう言われるとその通りなのです。今や女性の活躍が世界中で社会経済の活力、成長力を取り戻すとまで言われています。政治をはじめ企業、各種団体でも女性の活躍を切望しています。

我が老ク連では新たに老人クラブに参加したいと個人会員の女性が増えていきます。

歓迎です。規約変更は必要かもしれませんが、その人たちにも理事に就任いただくのも一つかと思えます。

女性の活躍による多様性を実現し、新たな価値を創造してほしいと思うからです。なぜ、女性の活躍をお願いしたいかといいますと2つあります。



1つ目はポテンシャルの大きい女性の能力が生かされるとイノベーションを生みます。

2つ目は、男性のみの活動は集団浅慮（グループ・シンク）、多様性の欠如になり新しい発想が生まれにくいと思うからです。

人口減少と高齢化は益々拍車をかけてきます。老人クラブには元気な人、フレイル、介護の必要な人など様々の人で構成されています。

地域に根差した助け合い、相互扶助、更には居場所づくりに女性の参画、活躍を期待します。

教養部

老人会員の居場所づくり

部長 吉野和雄

新型コロナウィルスは、5月には2類から5類に移行され現在の感染状況が減少傾向ですが、ウィルスがなくなつたわけではないので最小限の感染予防は必要です。

以前の生活様式や生活習慣は元に戻らないけれども、若い世代を先頭に活動が自由になっていきますが、高齢者にはまだそこまでの開放感はありません。特に団体で活動する場合は、窓の換気には十分配慮する必要があります。（会議等）

今後の教養部の活動内容については、以上の状況の中で、今後の活動の取り組みを考えると、福祉センターを活用している単老会員さまが気楽に活用できる場所作りを、進めではどうかと考えている。

第4～7回 近江歩こう会

前号「ねんりんおうみ94号」で報告後、更に4回、下記の通り「歩こう会」を実施しました。

第4回 宇賀野会館→蛭子神社→春日神社→世継会館→もやいの園→福田寺→長沢会館→法秀院の墓→坂田神明宮→宇賀野会館

第5回 多和田会館→日枝神社→公会堂→大宝神社→大谷憩いの村→多和田会館

第6回 やすらぎハウス→能登瀬会館→山津照神社→青木神社→ゆめホール→寺倉総寧寺→新庄桜並木→やすらぎハウス

第7回 やすらぎハウス→日撫神社→近江大菊花展→田中孫作の碑→舟崎位山神社→後鳥羽上皇隠れ洞窟→舟崎会館→母の郷会館→やすらぎハウス

いずれの回も各地で、歴史家高居芳美氏の説明があり、はるか昔に、私たちが住むこの近江地区で、あの場所で、あんなことや、こんなことがあったんだと思うと、わくわくし、歴史にロマンを感じました。高溝の田中孫作、日撫神社については地元の歴史家粕淵宏昭氏に説明頂きました。

また、各自治会館ではトイレ休憩や昼食場所として提供いただきました。ありがとうございました。

近江地区を終え、今後は、ルートを隣接地区(米原・山東)へ拡大し、計画していきます。



近江大菊花展会場にて

新庄桜並木と曼珠沙華

優良老人クラブ連合会表彰

当連合会(近江シニアクラブ)は、11月8日(水)に開催された第52回全国老人クラブ大会において、「その活動が優秀で他の模範となる」として、全国で約3500団体ある老人クラブ連合会の中から、優良老人クラブ連合会の一つとして会長表彰を受けたものです。



藤田会長は「今回の受賞は会員皆様のご理解とご支援、先輩方のこれまでのご尽力のお陰と感謝しております。」

人生100年時代、これから高齢者の方々が健やかに生きがいを持って暮らせるよう共に頑張ります。抱負を述べました。

